

# 下鴨神社奉納

場所 下鴨神社 舞殿・橋殿

日時 令和5年5月4日(木) 午後1時

主催 下鴨神社  
宮司 新木直人

共催 日本古武道振興会  
会長 加藤 紘

# 下鴨神社奉納演武

舞 殿

橋 殿

参加流派 38 参加人数 179 名 (直会参加 133 名)

- |                       |    |                        |
|-----------------------|----|------------------------|
| 小笠原流弓馬術礼法 (小笠原 清忠)    | 1  |                        |
| 鞍馬流劍術 (柴田 章雄)         | 2  | 示現流兵法 (東郷 重賢)          |
| 神道夢想流杖術 (濱地 光男)       | 3  | 貫心流劍術 (濱野 省三)          |
| 神夢想林崎流居合術 (鈴木ゆき子)     | 4  | 細川家伝統兵法二天一流 (宮田 和宏)    |
| 夢想神伝流居合術 (高橋 次秀)      | 5  | 田宮流居合術 (妻木 達夫)         |
| 澁川一流柔術 (森本 邦生)        | 6  | 尾張貫流槍術 柳生新陰流兵法 (加藤伊三男) |
| 直心影流薙刀術 (荻原 晴子)       | 7  | 氣樂流柔術 (水科 壽美)          |
| 神道無念流劍術 (小川 武)        | 8  | 関口流拔刀術 (祖父江光紀)         |
| 関口流新心流柔術 (関口 芳夫)      | 9  | 荒木流軍用小具足 (千葉 明)        |
| 宝蔵院流高田派槍術 (駒喜多 学)     | 10 | 立身流 (加藤 紘)             |
| 双水執流小具足腰之廻組討 (宇佐美 裕司) | 11 | 小野派一刀流劍術 (鈴木ゆき子)       |
| 竹内流捕手腰廻 (竹内 藤十郎)      | 12 | 淺山一傳流兵法 (関 展秀)         |
| 心形刀流武芸形 (小林 強)        | 13 | 柳生新陰流兵法 (柳生 耕一)        |
| 柳生心眼流體術 (梶塚 靖司)       | 14 | 無雙神傳英信流拔刀兵法 (森本 邦生)    |
| 小野派一刀流 (矢吹 裕二)        | 15 | 無想神傳流拔刀術 (小川 武)        |
| 無双直伝英信流居合兵法 (石本 一平)   | 16 | 天真正伝香取神道流兵法 (飯篠 快貞)    |
| 無限神刀流居合術 (平岡 祥淑)      | 17 | 夢想神伝居合重信流詰合 (津村 惠治)    |
| 琉球古武術 (井上 貴勝)         | 18 | 柳生制剛流拔刀 (柳生 耕一)        |
| 戸山流拔刀道 (中村 朋子)        | 19 | 天道流薙刀術 (木村 恭子)         |
| 神道夢想流杖術 (江角 和敏)       | 20 |                        |

20 流派 96 名

18 流派 83 名

令和 5 年 (2023) 5 月 4 日

下鴨神社 奉納演武順序

舞 殿

一、小笠原流弓馬術礼法 (小笠原長清)

小笠原 清 忠 (神奈川県)

小笠原 清

小笠原 清

安和 佐田 大 步地 誠基

二、鞍馬流劍術 (大野將監)

柴田 章 雄 (東京都)

松柴 井田 康章 一雄

三、神道夢想流杖術 (夢想権之助勝吉)

濱地 光 男 (愛知県)

鈴木 富田 裕純 司一 隆

四、神夢想林崎流居合術（北條甚助林崎平重信）

鈴木 木 ゆき子（東京都）

五、夢想神伝流居合術（林崎甚助重信）

高橋 次 秀（東京都）

六、澁川一流柔術（首藤蔵之進満時）

森 本 邦 生（広島県）  
松堂 森 本 邦 生  
田元 本 邦 生  
淳 慎 邦 生  
至 介 生

高橋 次 秀  
高平 本 秀  
阿部 博 昭  
石川 利 淳  
毛利 公 則  
清水 理 恵  
高橋 陽 斗

鈴木 木 香子  
鈴木 木 香子  
五嵐 真 則  
後藤 正 典  
酒井 大 一  
茂木 大 一  
宮内 大 一

七、直心影流薙刀術（山田平左衛門藤原光徳）

八、神道無念流劍術（福井兵右衛門嘉平）

九、関口新心流柔術（関口弥六右衛門氏心）

十、宝蔵院流高田派槍術（宝蔵院覚禅房法印胤米）

萩原晴子（兵庫県）

福香松大  
岡川野石  
輝隆富洋  
美子代子

小川武（東京都）

小川武昭  
功建太郎  
相馬一彦  
掛崎

関口芳夫（和歌山県）

関口芳夫  
山中貴聡  
大木裕隆  
北岡雅己  
福岡一之  
関口

駒喜多学（京都府）

駒喜多学  
若林多雄  
土屋明洋

十一、双水執流小具足腰之廻組討（二神半之助正聰）

十二、竹内流捕手腰廻（竹内中務大輔久盛）

半加田口藤田了嗣裕  
田藤堀昌昭  
田井清作  
野俊雄  
鹿島賢  
中

宇佐美裕司（埼玉県）  
宇佐美裕司  
舍利弗秀雄  
蛭田倫史

竹内藤十郎（岡山県）  
竹内秀将  
竹内勢至  
竹内智隆  
楠田正則  
赤尾安啓

十三、心形刀流劍術（伊庭是水軒秀明）

小林 強（三重県）

十四、柳生心眼流體術（荒木又右衛門）

梶塚 靖司（栃木県）

十五、小野派一刀流（伊藤一刀斎景久）

矢吹 裕二（東京都）

十六、無双直伝英信流居合兵法（林崎甚助重信）

石本 一平（兵庫県）

十七、無限神刀流居合術（武田惣角正義山本一刀斎）

平岡 祥淑（静岡県）

小加藤 尚大  
中藤 卓男  
伊東 大輔  
野仲 治行

高橋 慶太  
前田 樹里  
和田 光明

粕井 誠司  
加藤 岳司  
ストーネル・リチャード  
マツコール・ジヨージ

石本 恒夫

十八、琉球古武術

鈴古漆  
木澤畑  
貴朱詔  
之未一

井上貴勝  
(東京都)

道山塩藤藤井愛和宮楠  
正口田田田上須田本見  
泰量久千義俊慎良一匡  
弘也男種則二悟穗彦崇

十九、戸山流拔刀道  
(中村泰三郎)

中村朋子  
(神奈川県)  
高野部  
弘英  
光夫

二十、神道夢想流杖術  
(夢想権之助勝吉)

江角和敏  
(東京都)  
田中雄  
太也  
田中雄  
也也  
鹿野哲  
貴也  
青木



橋 殿

二、示現流兵法（東郷肥前守重位）

東郷重賢（鹿児島県）  
有村裕康  
松窪光臣  
徳永重臣  
塚本嘉平  
アレキサンダー・ブラッドショー

三、貫心流剣術（六戸司箭家俊）

濱野省三（兵庫県）

谷口信彦  
松本歩貴  
中田隆文  
福浦清隆  
福浦清隆  
矢島亜樹  
竹尾明樹  
長尾和樹

四、細川家伝統兵法二天一流（新免武蔵玄信）

宮田和宏（福岡県）

宮田和宏  
吉村壯平  
長富昭長  
篠田雅夫

五、田宮流居合術（田宮平兵衛業正）

河上裕彦

妻木達夫（神奈川県）

石川木達夫  
長野川孝定  
公原照博

六、尾張貫流槍術 柳生新陰流兵法（津田權之丞平信之・柳生兵庫助利嚴）

（加藤伊三男）（愛知県）

森浩紀  
新垣会弥  
神原ダニエル

七、氣樂流柔術（戸田越後守）

水科壽美（群馬県）

水科成美  
斎藤真悟  
宮下直規  
関口由也  
戸塚利美  
星野瑛誉

八、関口流抜刀術（関口八郎左衛門源實親）

祖父 江光 紀（茨城県）  
徳井 哲夫  
坂下 忠國

九、荒木流軍用小具足（荒木夢仁 斉源秀縄）

千葉 明（神奈川県）  
鈴木 優輔

十、立身流（立身三京）

加藤 紘（千葉県）  
加藤 紘  
江尻 裕介

十一、小野派一刀流剣術（伊藤一刀斎景久）

鈴木 木 ゆき子（東京都）  
鈴木 木

五 鈴木 真理香  
後 十 嵐 政 典  
酒 井 藤 正 章  
宮 内 一  
茂 木 大 地

十二、浅山一傳流兵法（浅山一傳齋重晨）

関 展 秀（茨城県）  
関 展 秀

十三、柳生新陰流兵法（上泉伊勢守信綱）

十四、無雙神傳英信流拔刀兵法（林崎甚助重信）

十五、無想神傳流拔刀術（林崎甚助重信）

黒塚  
澤田  
慧佳  
大壱

柳生耕一  
（愛知県）

柳野村生  
明元耕一  
徳一  
寛樹

森本邦生  
（広島県）

森本邦生  
元本  
淳慎  
至介

小川武  
（東京都）

小川藤文  
齊藤則武  
土屋正一  
高田建太郎

十六、天真正伝香取神道流兵法（飯篠長威齊家直）

十七、夢想神伝居合重信流詰合（林崎甚助重信）

十八、柳生制剛流拔刀（水早長左衛門信正）

十九、天道流薙刀術（齋藤判官伝鬼房）

飯篠快貞（千葉県）

荒成野 櫻井毛 近藤俊 成野祥 弘司 紀也

津村惠治（埼玉県）

安村和 関生 展之 秀之

柳生耕一（愛知県）

紀折居 岩本納 山田本 伊東田 大英一 浩省 輔作 吾明男 剛

木村恭子（東京都）

田室 井上 玉置 吉富 貴島 山橋 美津 美捷 美知 順子 美子 江子 子

ブライアン・ピーターソン  
庄 羽 林

## 古武道振興会沿革

日本古武道振興会は、昭和十年四月一日、松本学貴族院議員、小山松吉司法大臣、二荒芳徳伯爵等、当時の有識者と古武道各流派代表者が集まり結成されました。日本の誇るべき伝統文化財である古武道の衰微を憂い、その保存と振興を図ることを目的としました。昭和十五年四月四日には、財団法人の許可を受け多彩な活動を展開し大きな成果をあげてまいりましたが、終戦に伴う米軍占領下という事情もあり、財団法人を自主解散し、現在にいたる任意団体になりました。古武道振興の主旨は、日本の誇るべき文化財である日本武術の神髄を体得錬磨し、青少年に普及することにあります。「武は戈を止める」と申されております如く日常の武術修練によつて得た心技体の実力をあくまで表面に示さず謙虚に余裕をもつて自己及周囲を洞察する心と体を養うことにあります。その武の心を心として各流派宗家、師範を中心に毎年十一月三日の明治神宮の演武大会、伊勢神宮(式年遷宮年)、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、等戦前に引続き奉納演武が恒例となっております。

日本古武道振興会としては、活動の一環として古武道大会開催の他、流儀解説の普及にも努めてまいりました。昭和三十七年発行の機関誌「真鋭」第二号で各流儀の流祖伝系、演武者の経歴を掲載したのをはじめ、昭和四十五年には「真鋭」別冊で同じく流儀解説を紹介し、その後本格的な流儀解説書を創立四十六周年(昭和五十六年)に発行し、創立五十周年(昭和六十年)からは五年ごとに創立記念古武道大会を開催すると同時に、流儀解説書を改訂刊行してまいりました。

平成二十七年七月十九日(日)には、創立八十周年記念大会を中野サンプラザホールにて開催。

令和二年七月五日(日)には、創立八十五周年大会を伊勢神宮にて行う予定でしたが、コロナ禍の為中止。今後も古武道の益々の発展と隆盛を期して参ります。



# 日本古武道振興会

事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 柴田章雄

ホームページ <http://kobushin.jp/>  
メール [kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp](mailto:kobudoushinkoukai@yahoo.co.jp)